

## 平成 29 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 29 年 11 月 21 日

学 長 殿

所属部局・職名

共生システム理工学研究科・学生

申 請 者 名 多 那 航

助成事業の区分 (該当するものに印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・学会等運営・ <u>学会参加</u> ) 学術振興に関する事業 ( <u>学生</u> ・事務職員・その他の特別事業)
事業名	一般社団法人 経営情報学会 2017 年秋季大会
事業実施期間	平成 27 年 9 月 21 日 ~ 平成 27 年 9 月 21 日
成果の概要	<p>岩手県立大学アイーナキャンパスにて開催された経営情報学会 2017 年秋季大会に参加し、研究成果について口頭発表で報告した。今回の学会は「ひと・情報・技術で創造する地域の未来」というテーマで開催された。基調講演では、公立大学法人岩手県立大学学長の鈴木厚人先生による「国際リニアリコライダー (ILC) と地域からの開国」に関する講演が行われた。</p> <p>今回の報告内容の題目は「製造業における利用価値による差別化に関する考察」である。本研究は、新たな価値創造の概念であるサービス・ドミナント・ロジックにおいて提唱されている利用価値に焦点を当てて、競争要因として活用する際の戦略的なコンセプトの提案とその実現に向けた手法のフレームワークを提示した。</p> <p>差別化に向けて利用価値を活用する際の戦略的なコンセプトについては、機能的なベネフィットの強化、感情的なベネフィットの強化、顧客のコストの低減の 3 つを提案した。3 つの戦略的コンセプトは顧客が製品の購入と使用において受け取るベネフィットの違いから検討した。</p> <p>利用価値向上に向けたフレームワークとしては、3 つの戦略的コンセプトと 3 つのイノベーションの種類を組み合わせることで、9 つの実現方法を提示した。3 つのイノベーションとは、製品イノベーション、ハイブリッド・イノベーション、サービス・イノベーションである。</p> <p>報告の成果としては、質疑応答の中でいくつかのコメントを頂くことができた。サービス・ドミナント・ロジックに関連するコメントでは、単数形のサービスと複数形のサービスの定義の違いと本研究での扱いについてと、共創価値に対する本研究の捉え方があった。その他にも、具体例についての質問等を受けることができた。</p>